

## 高度情報化社会の表裏

大学院理工学研究科長 南 條 宏 肇

[nanjo@cc.hirosaki-u.ac.jp](mailto:nanjo@cc.hirosaki-u.ac.jp)

最近の情報化の進展は驚くほどの速さで進行し、私のような年寄りにはとてもついていけないのですが、それでも情報収集という面では非常に便利になったと感じています。いつでもコンピュータの前に座れば世界各国の情報が瞬時に得られますし、どこでも自由に連絡が取れるというのは、一昔前まではまったく考えられないことでした。さらに最近は携帯が進歩して、どこでも自由に情報が得られ、また連絡ができるようになりました。しかし便利になった反面いろいろな問題が出てきていることも確かです。

私たちが学生のころは、ものを調べるといえば本であり、図書館へ行って調べたりしたのですが、今の学生はインターネット検索でほとんどをやっているようです。インターネット上での情報は、玉石混交でかなりいい加減なものが多いが、学生はすべて鵜呑みにして利用している。本であればそれなりの信頼できるものとして捉えられるが、インターネット上の情報には基準がなく無責任なものも多い。価値の混乱が増大していくのではないかと心配しています。

また情報過多による被害も増えてきており、迷惑メールは増える一方ですし、ウィルスや秘密情報の漏洩など、とくにコンピュータに長けていないものにはストレスがたまる一方です。また学生にとっても、過多の情報が入り乱れる中でいらぬ刺激も増えて、相当ストレスがたまるようになってきているのではないかと考えています。学部長になって4年になりますが、学生の起こすあるいは巻き込まれる問題のかなりの部分が、この情報社会のもたらすものが原因となっています。インターネットの呼びかけによる集団自殺に巻き込まれたり、インターネットを通じたアダルト系の誘惑に引っかかり犯罪を犯したり、匿名の無責任で不当なインターネット上でのバッシングにより休学を余儀なくされたりなど例を挙げればきりがありません。最近は高校生以下の若年層にまで被害が及ぶようになってきているようです。

これらのことは、必ずしも情報化社会そのものが悪いということではなく、それを利用する側の儲け主義や、使用する人の無責任さ、倫理観の欠如にその原因があると思います。しかもその犠牲になるのが無防備の若者であるということは由々しき問題であると考えています。便利さを進展させるときには、それを使う側の倫理の進展も平行して醸成されなければいけないでしょう。

現代社会は、常に便利さ、商業主義のみが先行し、それにとまって問題を引き起こし、いつも弱いものがその犠牲者になる。環境問題もしかりです。

情報教育の関係者には、情報の学問・技術の面の教育に加えて、情報を発信する側の倫理、受ける側の防備などの面での教育をさらに強化して、少しでも犠牲者を減らすようお願いしたいと思います。